

独立行政法人地域医療機能推進機構

第3回 二本松病院地域協議会

議 事 録

日時：平成27年7月22日（水）18時30分～19時30分

場所：病院会議室

出席者：遠藤 幸男（福島県北保健福祉事務所所長）

三浦 一弘（二本松市市民部部長）

佐藤 正弘（二本松市福祉部部長）

三浦 信治（安達地方広域行政組合消防本部警防課長）

安齋 英雄（二本松市社会福祉協議会副会長）

土川 研也（安達医師会会長・二本松病院地域協議会委員長）

藤田 俊徳（二本松薬剤師会会長）

矢吹 孝三（二本松市民生児童委員協議会会長）

吉野 正昭（二本松市岳下区長会会長）

六角院長・柳沼副院長・藤原事務長・佐藤総看護師長・安齋薬剤科長・

遠藤副施設長・安田副総看護師長・村田事務長補佐・熊本係長・後藤係長（書記）

議事内容（藤原事務長進行）

・協議会次第にそって

1. 開会

2. 院長挨拶

・本日は、お忙しいところ第3回目の二本松病院地域協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

昨年4月に、地域医療機能推進機構二本松病院（JCHO 二本松病院）として新たにスタートして1年が経過し、2年目に入ったところですが、病院をはじめ健康管理センター、附属老人保健施設、訪問看護ステーションなど、何とか滞りなく運営されているところ

です。これもひとえに、地域の皆様方のご支援の賜物と、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

全国では、現在、65歳以上の人口が、国民の約4人に1人の割合となり、約3,000万人を超えております。今後、75歳以上の人口割合も増加し続けることが予想されてい

ます。

このため厚生労働省では、2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるように、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

未曾有の高齢社会では人々は複数の疾患を抱え、身体機能は低下し、認知症も増加するなど地域住民のニーズは多様化していくため医療・介護・福祉等が切れ目なく連携することが求められていますが、いわゆる“連携のギャップ”が存在しています。

「JCHO」では、この“連携のギャップ”を埋めるため、各病院のこれまでの実績を十分に生かし、地域住民の方々が抱える様々なニーズに応えるため、

- ・地域医療、地域包括ケアの要として、超高齢社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支え、
- ・地域医療の課題の解決・情報発信を通じた全国的な地域医療・介護の向上を図り、
- ・地域医療・地域包括ケアの要となる人材を育成し、地域住民への情報発信を強化し、

地域医療・地域包括ケアの確保ができるよう取り組んでいきたいと思っております。

さらに、このような状況を踏まえて、この度、当院の地域連携室をリニューアルして体制を充実し、入院中の患者さんやそのご家族が退院後も在宅での治療を継続し、安心して生活できるよう取り組みを進めることといたしました。

また、退院調整看護師が、院内のスタッフや地域の医療機関、訪問看護、居宅介護支援事業所などと連携を取りながら支援を行ってまいります。

※ 地域医療連携にかかる主な活動

- (1) 紹介患者さまの診療予約や入院の調整
- (2) 他医療機関への逆紹介患者さまの診療予約や調整
- (3) 退院に向けた調整（在宅・転院等の手続き支援など）
- (4) 関係機関などへの情報発信（地域医療連携室だよりの発行など）

当院は、今後さらに進んでいく高齢社会において、当院の診療機能を生かした医療から附属老健、訪問看護など介護、在宅療養に至るまで、地域で相互に連携できるような体制づくりを、地域の皆様と一緒に進んでいきたいと考えております。

本日は、平成26年度の運営実績と、平成27年度5月までの状況について、概要をご説明し、合わせて新年度における事業の取り組みについてポイントをご説明したいと考えております。

より良い病院づくりを目指していくために、様々なご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

3、委員の紹介

4. 議事（土川安達医師会会長進行）

1) 二本松病院の運営状況について（藤原事務長より説明）

- ・地域協議会資料に沿って説明（平成26年度の収支状況、平成27年度5月までの患者数、診療額等）
- ・平成27年度の収支計画について

～質疑応答～

: 福島県県北保健福祉事務所 遠藤所長

県北地域では入院患者数が減少していますが、二本松病院も減少傾向ですが理由を教えてください。

: 六角院長

常勤医師の減少がかなり影響しています。医師派遣の依頼は医大に何度も出向きお願しておりますが、医大そのものが医師不足により当院でも充足されない状況が続いています。

: 遠藤所長

医師不足は福島県全体の課題ですね。

地域医療構想で病床数の削減目標が公表され、6月に県の委員会が行われ出席してきました。会議の中では地域の状況を踏まえながら、それぞれの病院の意見を聞くこととしています。

; 安達医師会土川会長

JCHO病院同士の医師の人事異動は出来ないのでしょうか。

: 六角院長

医師の異動については2、3箇所では行っています。ただそれは医師の少ないところだから充足するものではなく、今後も、医師が少ない病院に異動させると、まだなっていま

せん。当院ではそのような動きがここ1、2年のうちにあるといいと思っておりますが、今後、総合診療医の育成を進めていく中で当院に医師派遣の動きが進んでいくように働きかけをしていきたいと思っております。

2) 地域連携の状況について（藤原事務長より説明）

- ・平成25年度から平成27年5月までの地域連携件数を報告
- ・平成27年4月に設立したJCHO二本松病院地域包括ケア推進室について説明

～質疑応答～

: 安達医師会土川会長

キビタン健康ネットワークの登録に二本松病院さんも手を挙げて頂きたくご検討ください。県民の情報をネットワークを使用して、役立てたいと思っております。

: 六角院長

登録したいと考えています。今後、具体的な検討を進めていきます。

3) 救急車受け入れ状況について（藤原事務長より説明）

- ・平成25年度から平成27年5月までの受け入れ件数を報告

～質疑応答～

: 福島県北保健福祉事務所 遠藤所長

福島市の救急搬送の情報ですが、患者の軽症者また重症者の割合は半々ぐらいの状況ですが、二本松病院さんはどのような割合になっていますか。

: 六角院長

当院も概ね軽症者半分、重症者半分です。軽症者の方を他の病院へ送るのは問題ですが、重症者の中で当院では診ることができない患者は医大または今度出来ました南東北病院の外傷センターに送ることとしています。

: 安達地方広域行政組合消防本部三浦警防課長

救急車の受け入れ状況について、二本松病院さんは近年目に見えてよくなり数字にも表れていまして、今後ともよろしく願います。

また、今年度から4名の救急救命士の病院研修受け入れをして頂き、2名が研修を終えお世話になりました。

研修者からは処置の研修も大事ですが、病院職員との会話を通じて顔の見える関係を築くことが出来たことが大きな成果で、大変有意義な研修を受けさせてもらいました。

と報告を受けました。

3) 地域協議会委員の選任について（藤原事務長より）

地域協議会委員の原医院が閉院し、原先生には副委員長もお願いしていましたが、ご辞退したいとの申し出がありました。原先生には地域医療の分野で委員をお願いしましたので、出来れば安達医師会さんをご相談しながら委員の方の選任を進めさせて頂きたいと思っています。

; 安達医師会土川会長

医師会で検討させて頂きます。

; 六角院長

よろしく申し上げます。

4) その他

: MR I 更新について（藤原事務長より）

・先般入札が行われて機種が決まりました。機器更新に伴う設置期間中はMR I が使用できなくなりますので、近隣の病院に出向き協力依頼をお願いする予定です。

: 二本松市社会福祉協議会安齋副会長

・いつも職場の健診を受けさせて頂いております。12月にレントゲンで胃部の検査をした際に自分の体を支えるのが少し大変でした。汗もかくので、撮影台の握り棒が滑ってとても怖かったです。ベルトか何かで体を支えられたらいいと思いました。

; 六角院長

ご意見ありがとうございました。

次回の開催日は平成 28 年 1 月または、2 月を予定させて頂きます。

5) 閉会のあいさつ

柳沼副院長より

地域連携室室長も拝命しております。どうぞよろしくお願いいたします。

患者を中心として訪問、各介護施設、自治体の連携をより一層深め「介護難民を作らない」ことを目標として展開してまいります。

皆様方よりご支援を頂きながら運営してまいりますので、改善点がありましたらご教示くださいますようお願いいたします。

本日はお忙しいところありがとうございました。